



5月20日 大きく育った 養殖ひじき

市内で養殖ひじきの収穫が始まりました。養殖ひじきは、昨年11月にロープにひじき苗を挟み込んで育て、天然ひじき漁が終わった後の5月に収穫できるようになります。富来、国東、武蔵、安岐の4か所の沖合では、大きく育った養殖ひじきを、漁業関係者が協力して刈り取っていました。



5月18日 会社創立45周年を 記念して

黒津崎環境有限会社(国東町小原)が、市教育委員会に対して、10リットル入り消毒液14箱とスプレーボトル20個を寄贈しました。前田真宏代表取締役は「会社創立45周年に合わせ、市の役に立てればと思いました。人や環境に優しい成分の消毒液ですので、安心して使ってください」と話していました。



5月15日 子ども用マスクを 開発・寄贈

ヘルメット潜水株式会社(安岐町瀬戸田)が、市内13か所の保育所の園児・職員に対して、布製マスクを1,560枚寄贈しました。市役所で行われた贈呈式で、伊賀正男代表取締役は「子ども用マスクを開発したので、まずは市内の子どもたちに使ってもらいたいです」と話していました。



5月14日 農政課に 新たな協力隊が誕生

市の地域おこし協力隊に、京都府出身の羽賀田剛さんが新たに加わりました。羽賀田さんは「以前は、東京都の菓子店に勤めていました。国東市で農業をしている同級生を訪ねた際に、国東市に興味を持ちました。将来は自分で作った農産物を使って、菓子やパンのお店を開きたいです」と話していました。



5月28日 長年の友好関係の証に

国東市歴史体験学習館(弥生のムラ)と交流のある中国の浙江省博物館より、市にマスク3,000枚が寄贈されました。国東市歴史体験学習館の史跡公園の高床式建物は、浙江省博物館の協力を得て復元しており、両館は長年の友好関係にあります。



5月22日 市内の 医療機関のために

宝工業株式会社(安岐町馬場)が、市内の医療機関に対して、フェイスシールドを300個寄贈しました。市役所で行われた贈呈式で、萱島敏男営業課長は「樹脂製品の製造技術を活用して、市の新型コロナウイルス対策に役立ちたいと考えました」と話していました。



5月19日 お弁当の個人向け宅配を開始

新型コロナウイルスの影響を受けている国東町内の飲食店が集まって「個人向けデリバリーサービス事業」を開始し、市役所でスタート式が行われました。事業代表者の長峰公視さんは「国東町内ならどこへでも、1個からでもお弁当を配達します。色々なお店の味を楽しんでください」と話していました。
※本事業は7月末まで実施予定。昼・夜配達可能です。
※予約は、前日の午後5時までにくにさき配食サービス組合(☎0978-73-6080)へ。

